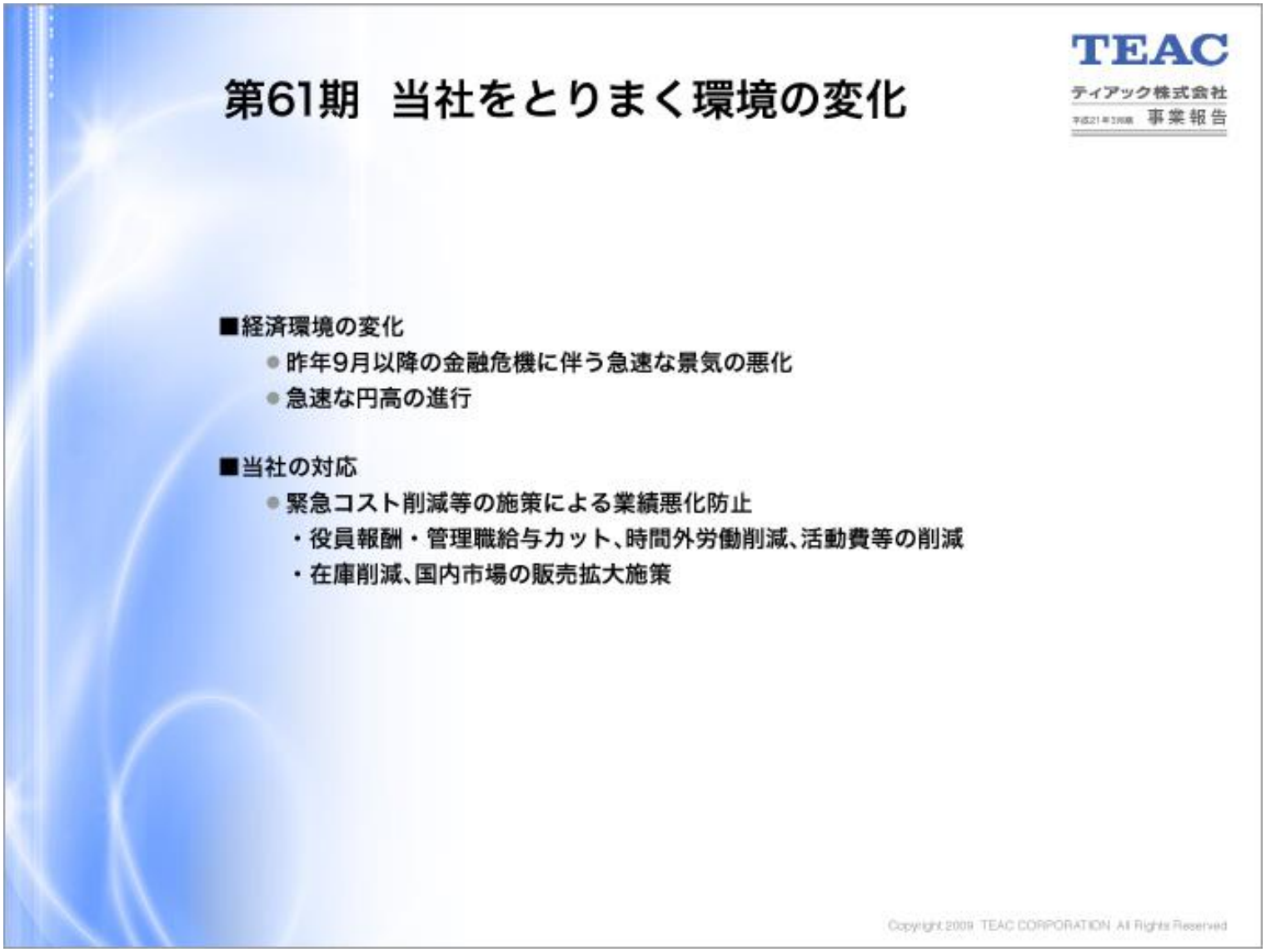
TEAC

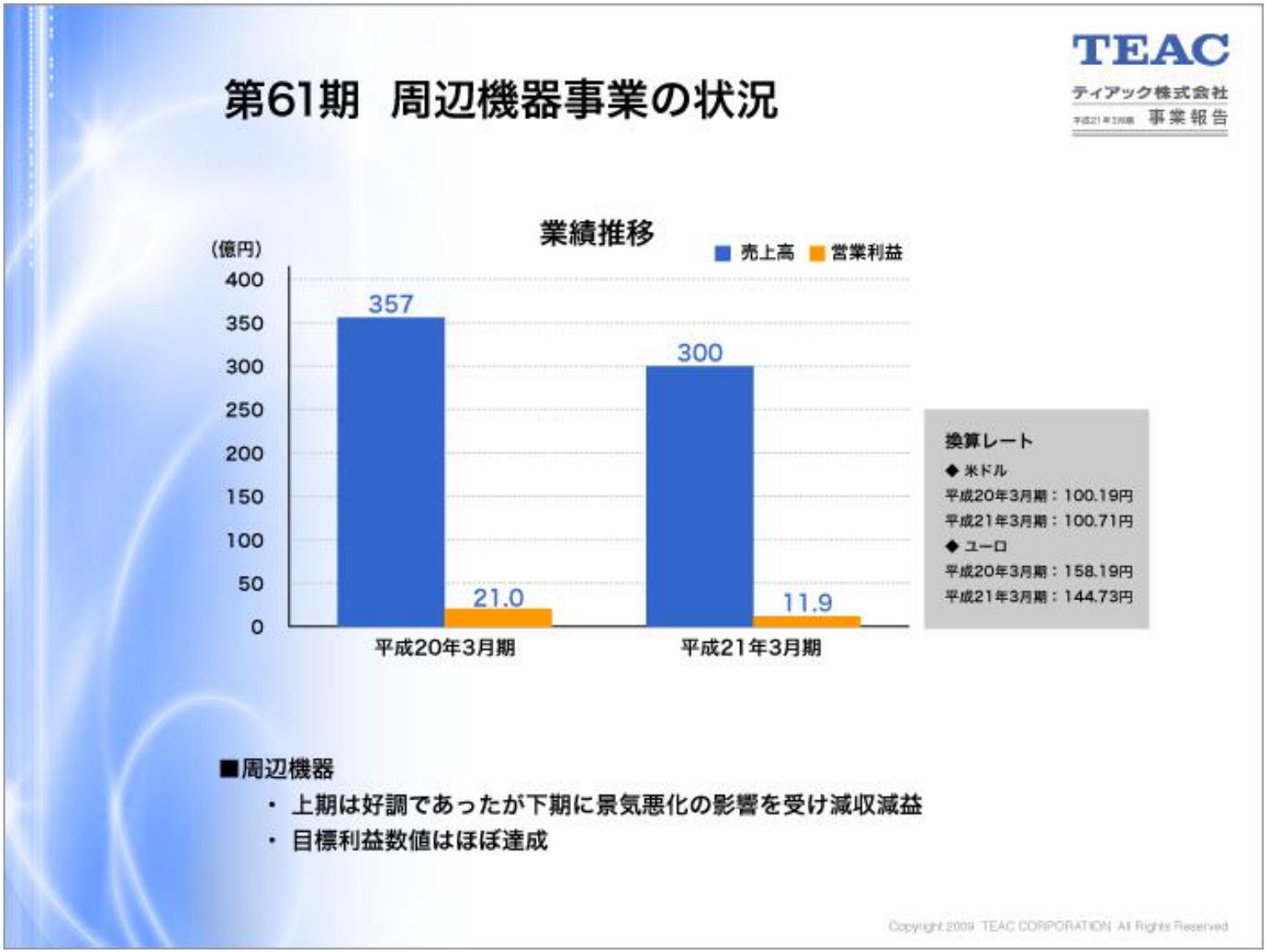
ティアック株式会社

平成21年3月期　事業報告



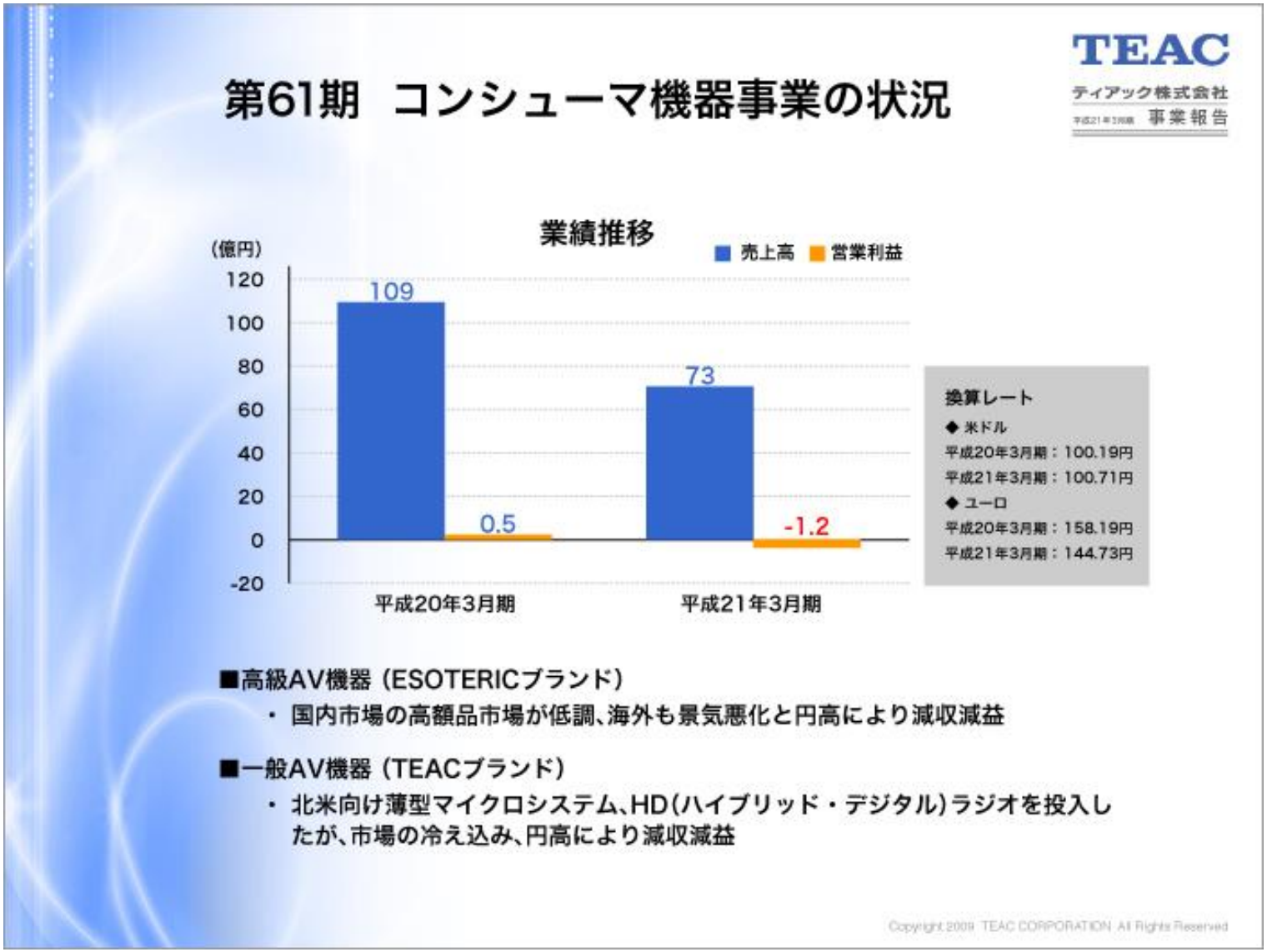
第61期 当社をとりまく環境の変化

当連結会計年度は、昨年９月の米国大手証券会社の破綻に端を発する世界的な金融危機の影響を受け、わが国経済も急速な景気悪化が表面化し、輸出、生産は大幅に減少、設備投資、個人消費とも減少し、企業収益も大幅に悪化しました。わが国経済、世界経済ともこの金融危機および景気の一層の悪化懸念が内在する状況にあります。為替についても、昨年８月までは米ドル、ユーロとも概ね円安に推移していましたが、特にユーロを中心に大幅な円高傾向に変わり、輸出比率の高い当社の業績に大きな影響を与える結果となりました。通期では全体として、前期比較で景気減速に伴う需要の減少が売上高の減少の主要因となり、為替の円高が利益面での圧迫要因となりました。
そのような環境下、当社では業績の悪化を最小限にとどめるため、第４四半期にて緊急コスト削減策として、役員報酬、管理職給与のカット、時間外労働の削減、活動費の削減等に取り組むとともに、在庫の削減、円高環境下で国内市場での販売の拡大に努めました。その結果、当連結会計年度の連結売上高は51,188百万円（前期比17.3%減）となり、営業利益は1,265百万円（前期比46.5%減）、経常利益は営業利益の減少と急速な円高に伴う為替差損の発生により134百万円（前期比89.7%減）となりました。また、特別損失として投資有価証券評価損があったものの特別利益として海外租税公課戻入益等により、当期純利益は130百万円（前期比90.2%減）となり、黒字を確保しました。前期と比較すると当期純利益は大幅減益となっていますが、経常利益の減少に加えて、前期はテストメディア事業の譲渡による特別利益714百万円等の計上があったことも影響しています。



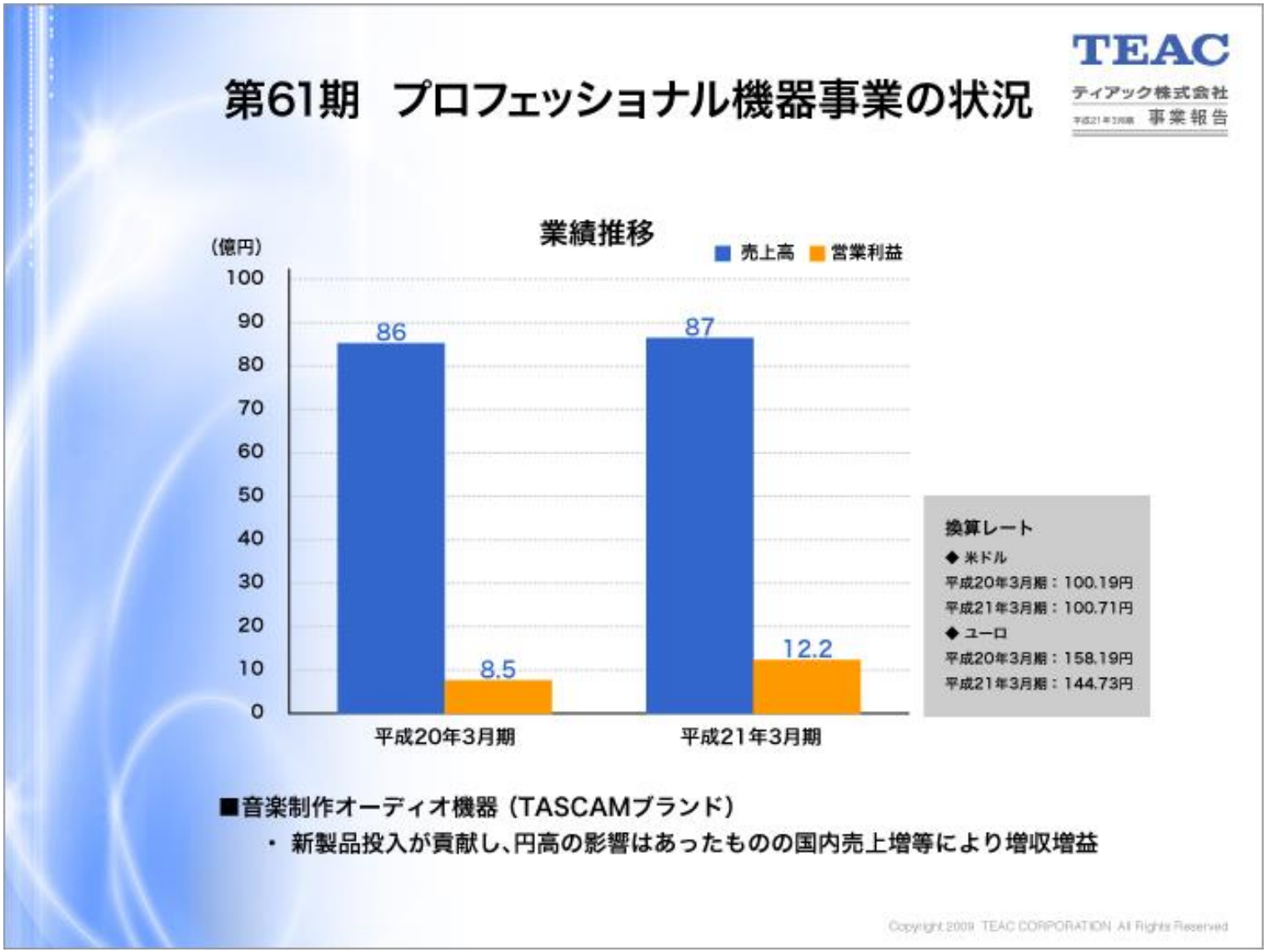
第61期 周辺機器事業の状況

周辺機器事業の売上高は30,061百万円（前期比15.9%減）、営業利益は1,199百万円（前期比43.0%減）となりました。当連結会計年度の業績は、上半期は好調に推移したものの、下半期になって世界的な景気後退の影響により急激な販売減速がありましたが、通期では予想を上回る結果となりました。主力の光ディスクドライブは11月以降パーソナルコンピュータ（ＰＣ）メーカー各社の急激な生産調整により、全体的に出荷数量が大きく落ち込んだ上、ＣＤ－ＲＯＭドライブとコンビネーションドライブが終焉を迎えつつあり、大幅な出荷数量減となりました。ＤＶＤ－Ｒ／ＲＷ／ＲＡＭドライブとＤＶＤ－ＲＯＭドライブも出荷数量の落ち込みはありましたが、ドライブメーカー各社がＰＣメーカーの動向に合わせて急速に生産を手控えたことで、３月にはやや品不足の兆候となり、今後は緩やかながら回復が見込めるものと期待できます。ディスクパブリッシング分野は、プリンター本体の出荷台数増加に伴い消耗品なども順調な売れゆきを示しましたが、主力市場である欧州向けが、下半期はユーロに対して円高が大幅に進み、価格改定等を行いましたが吸収しきれず、国内生産主体の当製品はまともに影響を受ける結果となり、目標には到達しませんでした。今後は為替リスクの回避とコストダウンのため、当社海外工場へ一部生産移管を行う予定です。



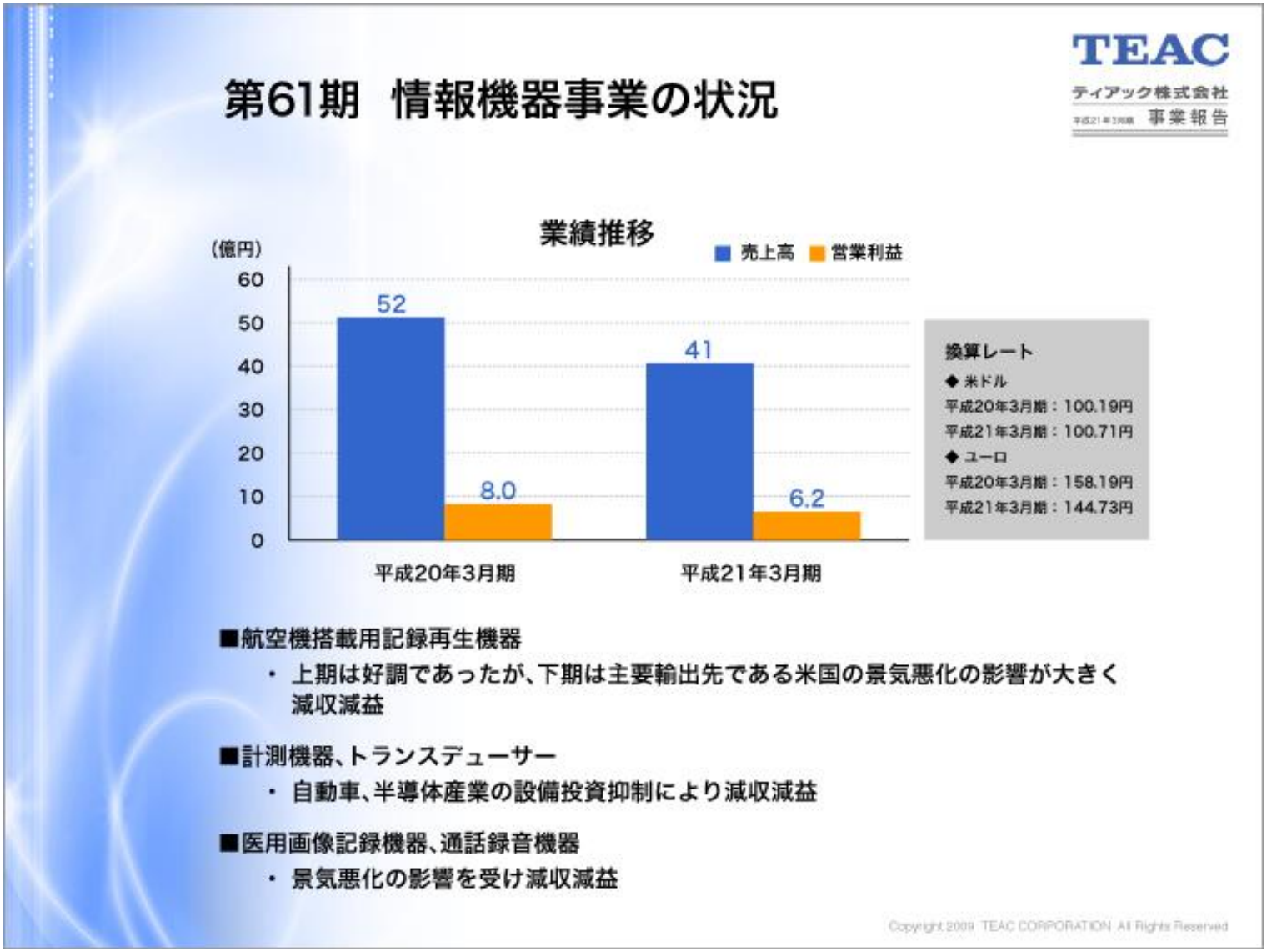
第61期 コンシューマ機器事業の状況

コンシューマ機器事業の売上高は7,317百万円（前期比33.1%減）となり、営業損失は129百万円（前期営業利益58百万円）となりました。一般ＡＶ機器（ＴＥＡＣブランド）は、急激な市場の変化により減収減益となりました。特に北米向け販売においては従来の薄型マイクロシステムおよびｉＰｏｄ関連商品に加えて、ＨＤ（Ｈｙｂｒｉｄ　Ｄｉｇｉｔａｌ）ラジオへの商品展開を図りましたが、販売店の売上減少により受注が大幅に減少となりました。また欧州ではユーロ、ポンドの下落による大幅な為替差損発生とともに、市況の急激な冷え込みによりドイツ、ＵＫ販社ともに計画を下回る結果となりました。日本国内では従来の商品に加えて本格的ＨＩＦＩシステムであるＲｅｆｅｒｅｎｃｅシリーズの市場投入、メディアへの露出拡大策により増収増益となりました。高級ＡＶ機器分野（ＥＳＯＴＥＲＩＣブランド）は、国内市場の高額品を中心とした市場が引き続き低調であり、また海外も景気後退と円高による現地価格上昇の影響で減収減益となりました。



第61期 プロフェッショナル機器事業の状況

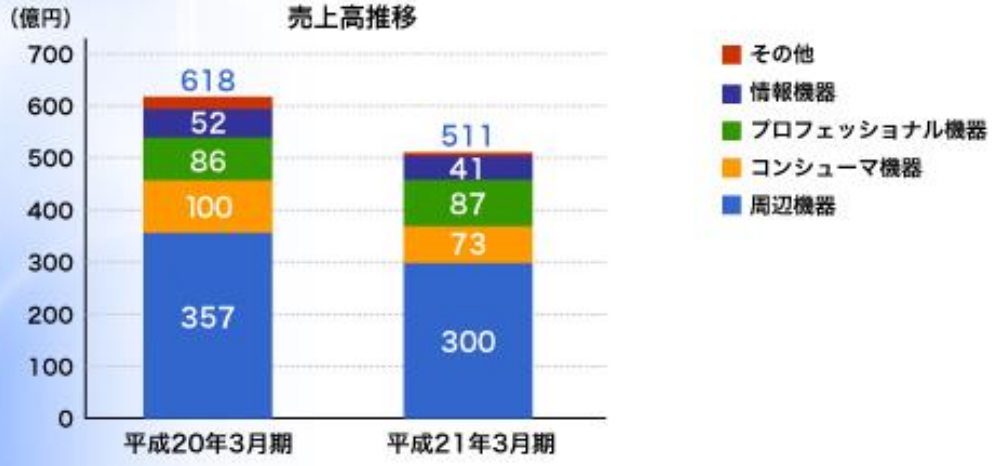
プロフェッショナル機器事業の売上高は8,786百万円（前期比1.9%増）となり、営業利益は1,228百万円（前期比43.2%増）となりました。当連結会計期間は、原材料コストの上昇、金融危機、円高という大きなマイナス要因はありましたが、開発資源の有効活用による新製品投入数の増加が功を奏し、欧米、日本市場にて、デジタルマルチトラックレコーダーや、ポータブルデジタルレコーダーを中心に引き続き好調に推移しました。結果として、前期と比較すると円高による円換算後の販売金額の縮小の影響を受け売上高は横ばいとなりましたが、ユーロ安の影響はあったものの生産が海外であることから米ドル安の影響は少ないこと、逆に円高が増収となる国内市場での販売が増加したこと等により増益となりました。



第61期 情報機器事業の状況

情報機器事業の売上高は4,180百万円（前期比20.6%減）となり、営業利益は628百万円（前期比22.2%減）となりました。航空機搭載用記録再生機器（ビデオシステム）分野では、上半期は旅客機搭載のエンターテイメント機器の売上増による業績好調があったものの、下半期は円高および主要輸出先の米国景気減速の影響が想定以上に大きく、減収減益となりました。航空機搭載用記録再生機器以外の情報機器製品は、主に国内市場向けであることから円高の影響は僅かでしたが、逆に国内自動車、半導体産業を中心に景気減速による設備投資や計測実験機器の急激な抑制が行われたことにより、期末に売上が集中する傾向が強い計測機器やトランスデューサー関連商品では売上高が伸び悩みました。また、通話録音機器と医用画像記録機器も景気減速の影響を受け、減収減益となりました。

第61期　全社の状況



換算レート
◆ ドル
平成20年3月期：100.19円
平成21年3月期：100.71円
◆ ユーロ
平成20年3月期：158.19円
平成21年3月期：144.73円

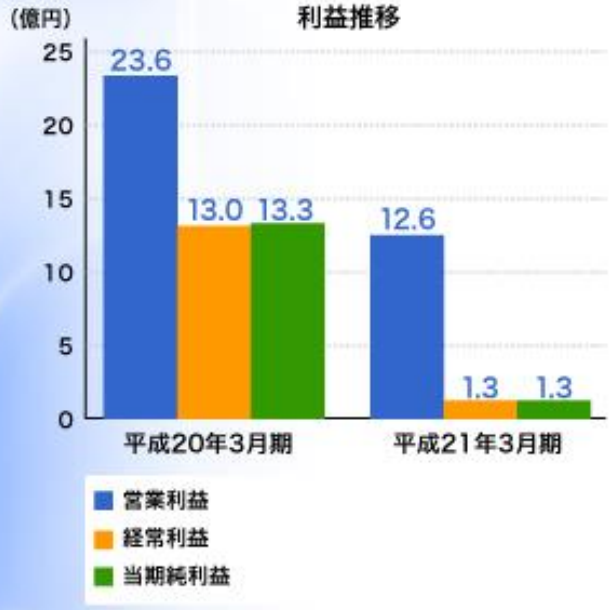
■売上高

- 下期の景気悪化による売上高減少
- 中期事業計画にて売上高の絞込みにより当初から減収の見込

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第61期　全社の状況

TEAC
ティアック株式会社
平成21年3月期　事業報告



■営業利益：　46.5%減
（為替の円高の影響大）

■経常利益：　89.7%減

■当期純利益：90.2%減

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第61期に実施した主な施策

■アコースティック・アプライアンス(AA)事業のプロフェッショナル機器事業への吸収、開発リソース有効活用によるTASCAM事業の拡大

■組織変更による管理体制強化と事業セグメントの変更によるコンシューマ機器とプロフェッショナル機器の強化

■営業キャッシュ・フロー重視の経営

■取引銀行の拡大と借入枠の確保

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

対処すべき課題 - 事業基盤の確立

現在の経済環境、円高下での黒字確保、安定成長に向けての事業基盤の確立

■コンシューマ機器
- 新製品投入による国内市場の拡大

■プロフェッショナル機器
- 新製品投入による販売の拡大
- 新たな流通戦略による国内販売の拡大

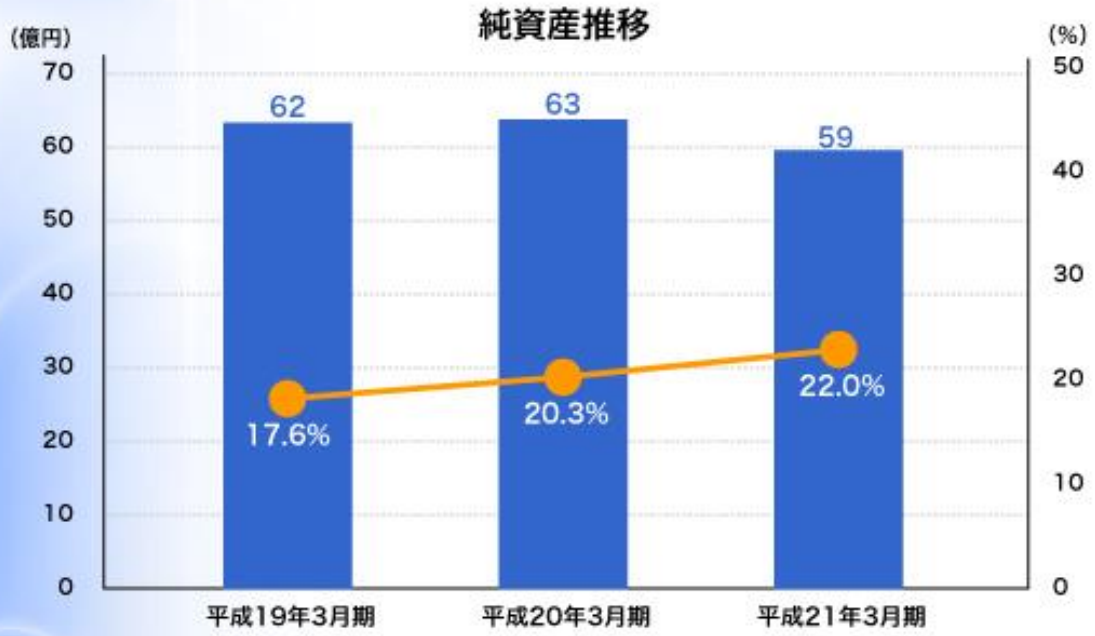
■周辺機器
- 現在の売上規模に合わせた生産子会社縮小および流通体制見直しによるコスト削減
- ディスクパブリッシング製品の生産の一部海外移管による為替変動リスク耐性と収益性の向上

■情報機器
- 通話録音機器や医用画像記録機器の新製品の欧米市場での販売開始による販売の拡大

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第61期　連結貸借対照表 - 純資産

TEAC
ティアック株式会社
平成21年3月期　事業報告



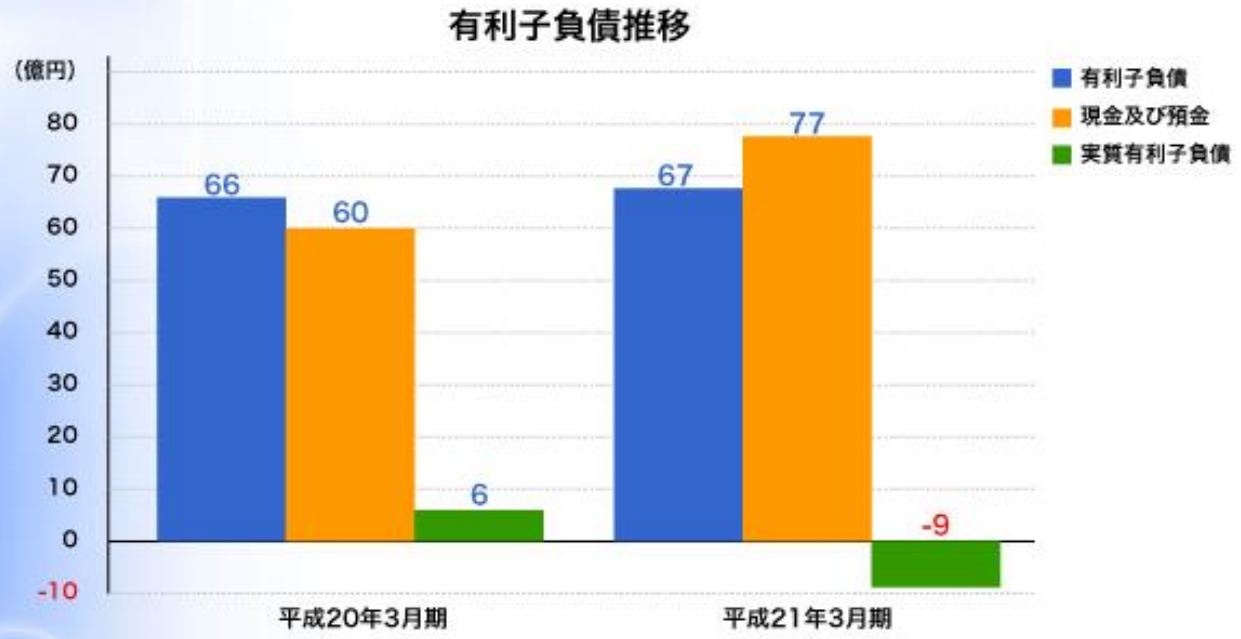
■第61期末の自己資本比率は22.0%に改善

- 当期純利益130百万円を計上したが、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により純資産額は減少
- 売掛金圧縮、在庫削減策等により総資産も減少したため自己資本比率は改善

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第61期　連結貸借対照表 - 有利子負債

TEAC
ティアック株式会社
平成21年3月期　事業報告



■現金及び預金増加で実質有利子負債はゼロ以下、実質無借金

- 受取手形・売掛金、たな卸資産の圧縮による営業キャッシュ・フロー大幅改善
- 金融危機対応のための新規銀行借入の実施

Copyright 2009 TEAC CORPORATION. All Rights Reserved

第61期 連結損益計算書

■特別利益

海外租税公課戻入	182百万円

■特別損失

投資有価証券評価損	167百万円

Copyright 2009 TEAC CORPORATION. All Rights Reserved

第61期　連結株主資本等変動計算書

TEAC
ティアック株式会社
平成21年3月期　事業報告

平成21年3月期

（単位：百万円）

	株式資本					評価・換算差額等					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
前期末残高	6,781	1,008	1,795	△ 81	9,503	△ 34	△ 3,136	△ 3,170	14	18	6,365
当期変動額											
当期純利益			130		130						130
連結子会社減少に伴う利益剰余金増加額			0		0						0
自己株式の取得				△23	△23						△23
株式資本以外の項目の当期変動額（純額）						25	△542	△516	△14	4	△526
当期変動額合計	—	—	131	△23	107	25	△542	△516	△14	4	△418
当期末残高	6,781	1,008	1,926	△104	9,610	△8	△3,678	△3,687	—	23	5,946

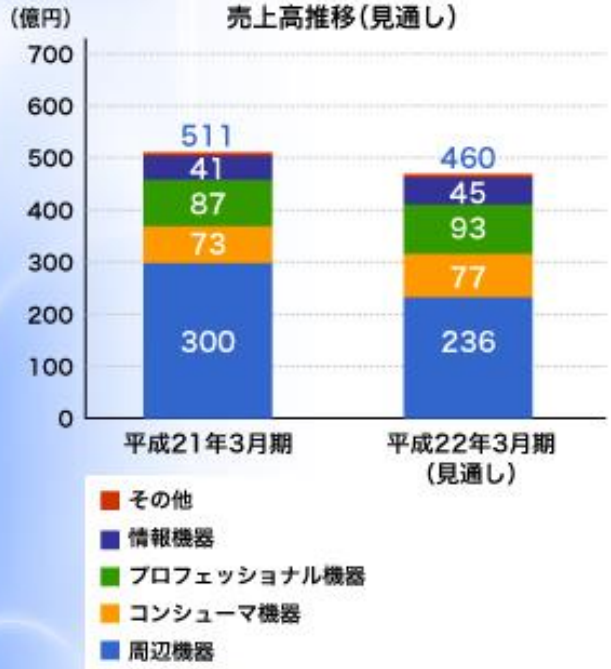
■株主資本は、当期純利益等により107百万円増加

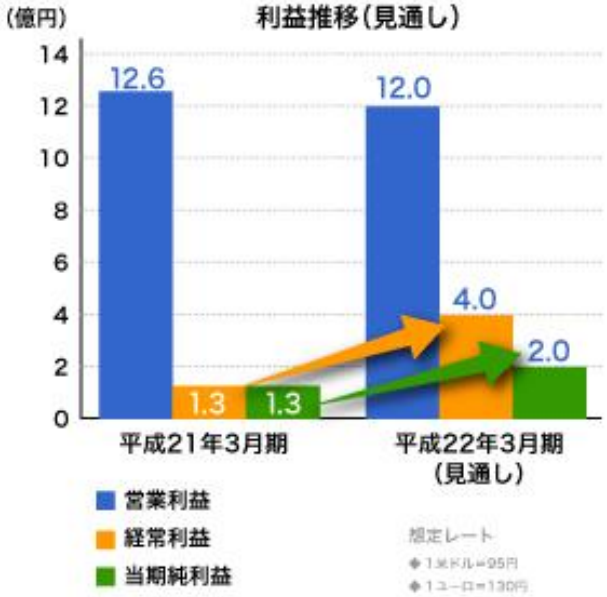
■評価・換算差額等は、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により516百万円減少

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

次期の見通し

TEAC
ティアック株式会社
平成21年3月期 事業報告





■現在の経済環境、円高下、黒字を確保

■円高の影響を考慮

■減収だが経常利益、当期純利益では増益

Copyright 2009 TEAC CORPORATION All Rights Reserved